

大阪歴史博物館年報

令和5年度



大阪歴史博物館

令和6年10月

目 次

はじめに	1
展観事業	1
資料収集	4
資料のデータ整備・特別観覧・貸出し	9
教育普及事業	10
学校連携事業	11
ボランティア関連事業	12
連携事業・大阪歴史博物館友の会との連携	12
文化庁補助金による取り組み	14
展示改修計画	14
民間連携事業	14
広報宣伝活動	14
刊行物	15
調査研究活動	15
受嘱・派遣・視察	21
令和5年度入場者数	22
利用規定	23
運営組織	24

はじめに

令和5年度は5月8日をもって新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行し、それをきっかけに社会活動もかつてを取り戻す方向へと転じた。実際、当館の来館者数はコロナ前の水準に戻りつつある。

一方でコロナによる活動自粛を機に取り組んできた事業の見直しなどは今年度実務作業をおこなったものが少なくなかった。そのひとつが6階特別展示室のケース改修である。工事は予定どおり順調に進み、年度内に壁面ケースの改修と独立ケースの一部新調をおこなった。この工事のため半年以上にわたり特別展示は開催できなかったが、途中での空気環境測定は良好な結果を示しており、令和6年度中の公開承認施設復帰を目指している。

令和4年度に文科省の委託事業として実施した「文協施設による多様な PPP/PFI の先導的開発事業」については令和5年度が事業者選定の年にあたり、プロポーザルを実施した。その結果2社の応募があり、最終審査を経て歴博魅力創造パートナーズ（株式会社 JTB コミュニケーションデザイン他 コンソーシアム）に決定した。これをうけ、令和6年度には同社との協議をおこないながら来館者層の拡大と利用者の満足度向上のため、新たな事業に取り組んでいくこととなる。

しばらく休止していたボランティア活動についても、当館活動の現状や従来のおける課題を整理したうえで方針と活動内容を再策定し、年度内に募集と研修を終えた。こちらも活動再開は令和6年度となる。このほか常設展示の音声ガイドについてもリニューアル作業を進め、スマートフォンを用いたサービスをやはり令和6年度に投入する予定となっている。

以上は令和7年4月に迫ってきた大阪・関西万博を強く意識した活動の事例ではあるが、万博が最終目標というわけではない。平常の展示活動や収集保管、研究を含め、博物館がおこなっていくべき活動をしっかりと認識し、常に次のステップに臨んでいくことが求められている。

大阪歴史博物館 館長 大澤研一

展観事業

常設展示

● 10 階：古代フロア

「難波宮の時代」ハイライトコースでは、奈良時代の後期難波宮大極殿を実寸大で再現するとともに、宮廷儀礼の再現映像を上映している。また、展望窓から実際の難波宮跡公園を展望することができる。実物資料展示では、国の重要文化財に指定されている5世紀の船形埴輪や難波宮跡出土の遺物を展示している。

● 9 階：中世近世フロア

「大坂本願寺の時代」では、中世大坂の町の様子を大坂本願寺御影堂や町並みの復元模型、実物資料などから紹介している。「天下の台所の時代」ハイライトコースでは、江戸時代の大坂の景観を、中之島の蔵屋敷や船場の町並み、長堀の住友銅吹所、道頓堀の角の芝居といった復元模型や、壁面のグラフィックにより紹介している。実物資料展示では、大坂の町・産業・芸能・学問などに関する資料を紹介している。

● 8 階：「歴史を掘る」フロア・特集展示室

「歴史を掘る」フロアでは発掘現場の再現を行い、視覚表現を多用したパネルやパズルなど、考古学について体験的に学べる場を提供している。特集展示室では、館蔵品のコレクション展示や大阪に関するテーマ展示などのミニ企画展を、2ヵ月程度の期間で実施している。

● 7 階：近代現代フロア

「大大阪の時代」ハイライトコースでは、近代都市・大阪の諸様相を原寸大で再現した公設市場・町工場・「心ぶら」などから紹介している。実物資料展示では、政治・経済・くらし・文化に関するさまざまな資料を多方面から紹介している。

● 難波宮跡 遺跡展示

博物館・NHK 大阪放送会館の敷地には、前期難波宮の大規模な倉庫群（内裏西方官衙）がおかれていた。建物の地下には、発掘調査で明らかになった倉庫や塀などの遺構が保存されている。また博物館の敷地南側は遺跡公園として整備されており、発掘調査で見つかった古墳時代の大型倉庫群16棟のうち15棟を地上表示し、1棟を復元展示している。

● タイムカプセル EXPO'70

昭和45年（1970）日本万国博覧会が開催された際、毎日新聞社と松下電器産業（現パナソニック）により、当時の生活・文化を代表する2,098点の品々を収納したタイムカプセルを、大阪城天守閣前に埋設する事業が実施された。現地には2基が埋設されているが、当博物館の1階北東のエスカレーター奥に、同型品を展示している。

常設展示更新の状況

10・9・7階常設展示および1階エントランスにおいて、39件の展示替えを行った。各階を縦断するテーマ展示は、「新年の寿（ことほ）ぎ一辰年によせて一」（12月20日～令和6年1月29日）を開催した。

階	コーナー	内容	期間	テーマ	
10	特設コーナー	異界へのメッセージ 墨画人面土器	4月5日～7月3日		
10	特設コーナー	寝屋川市の石器・土器	7月5日～10月10日		
10	特設コーナー	後期難波宮でみつかった奈良時代の柱根	10月12日～1月8日		
10	特設コーナー	タタキメ・当て具痕跡がわかる陶質土器・外来系須恵器	1月10日～		
10	難波宮を掘る	重なってみつかった柱穴（写真パネル）	7月26日～11月13日		
10	難波宮を掘る	建築遺構の最初の発見（写真パネル）	11月15日～2月19日		
9	秀吉のまちづくり	今福・鳴野の戦い関連展示	6月28日～8月21日		新年の寿ぎ一辰年によせて一
9	秀吉のまちづくり	茶臼山出土の金箔土師器皿	8月23日～12月4日		
9	秀吉のまちづくり	大坂の陣関連展示	12月6日～3月11日		
9	町人の文化	干支にちなんだ近世大坂の絵画	12月13日～4月2日		
9	町人の文化	近世文人の合作絵画	5月10日～8月22日		
9	まちの生活	木綿を通してみる生業・暮らし・装い	4月5日～6月5日		
9	まちの生活	装剣奇賞の世界	6月7日～10月23日		
9	まちの生活	看板あれやこれや（近世の看板）	10月25日～12月27日		
9	まちの生活	大阪・西日本の凧	1月5日～2月5日		
9	まちの生活	上巳の節供（雛人形、雛囃、雛飾り）	2月7日～3月4日		
9	まちの生活	見世物	3月6日～	新年の寿ぎ一辰年によせて一	
9	都市と近郊村落	底抜け担桶	7月4日～10月30日		
7	近代都市の建設	明治以降の泉布観	4月5日～8月28日		新年の寿ぎ一辰年によせて一
7	近代都市の建設	中村順平による関東大震災後の東京復興計画	8月30日～1月8日		
7	近代都市の建設	大阪朝日ビル	1月10日～		
7	大阪の美術工芸	近代大阪の木彫・牙彫	5月24日～7月3日		
7	大阪の美術工芸	近代の木工・漆工（芝山象嵌琴・自在龍・螺鈿机）	7月5日～10月2日		
7	大阪の美術工芸	近代の婚礼衣装Ⅰ	10月4日～11月6日		
7	大阪の美術工芸	阪井俊政の刀装具	10月26日～3月10日		
7	大阪の美術工芸	近代の婚礼衣装Ⅱ	11月8日～12月18日		
7	大阪の美術工芸	近代の婚礼衣装Ⅲ-1	12月20日～2月5日		
7	大阪の美術工芸	近代の婚礼衣装Ⅲ-2	2月7日～3月18日		
7	大阪の美術工芸	阪井俊政の刀装具	3月13日～5月27日		
7	大阪の美術工芸	近代の婚礼衣装Ⅲ-3	3月20日～		
7	上方芸能の展開	松竹楽劇部から松竹少女歌劇へ	9月6日～11月27日		
7	特設コーナー	龍自在置物	12月13日～2月6日		
7	都市の民間信仰	太融寺喜多向庚申チラス	7月4日～1月22日		
7	都市の民間信仰	宝船	1月24日～2月26日		
7	都市の民間信仰	飯事道具	2月16日～3月25日		
7	引札と広告	幸運巻寿司チラス、節分豆まきチラス	1月24日～		
1	ポスター展	拾われた破片に歴史あり 中世の惣墓	4月5日～8月31日		
1	ポスター展	特集展示 新発見！なにわの考古学 2023 開催中です！	10月24日～1月8日		
1	ポスター展	大坂城の金箔瓦	1月14日～		

特集展示

8階の特集展示室では、常設展の内容を掘り下げたものや季節に合わせた企画などを順次開催している。

●新収品お披露目展—令和元年度から3年度まで—

会 期：令和5年3月23日～5月15日

出 品 数：44件

担 当：阿部文和

当館では開館以来、郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く紹介し、理解を深めることを事業運営の基本方針としている。この基本方針に沿った資料の収集は博物館活動の根幹でもあり、当館では毎年、市民の皆様からご寄贈いただいた様々な資料を保管し、研究や展示等に活用を図っている。本展示では、令和元年度、令和2年度、令和3年度に新たに館蔵品となった数多くのご寄贈品から未公開のものを中心に、44件の資料を紹介した。

主な展示資料は、渡邊家住宅照明器具（渡邊實氏寄贈）、芙蓉小禽図 長谷川玉峰筆（前田美希氏寄贈）、木彫根付「蝦蟇仙人」 松田亮長作（渡邊正憲氏寄贈）など。

●ナニコレ？のこうこがく

会 期：令和5年6月28日～10月2日

出 品 数：約80件

担 当：安岡早穂

大阪歴史博物館（愛称：なにわ歴博）が収蔵する数多くの考古コレクションから、教科書に出てくるような縄文土器をはじめ、考古資料を見るときの入門となるような資料を選んで約80件を展示した。重厚な土器や鋭利な石器、ピカピカ光る金属やガラスなど、時代も素材も外見も多彩なものをピックアップした。ワークシートを片手に「ナニコレ？」と考えながら見て回ることを目指し、色や素材、形といった特徴を観察する展示とした。

◇関連行事

- わくわく子ども教室 さわって 作って！ ナニコレ？のこうこがく
令和5年7月29日
- ちぎり絵うちわづくり
令和5年7月15日、8月5日、9月16日
- ナニコレ？クイズラリー
令和5年8月13日、9月17日

●新発見！なにわの考古学2023

会 期：令和5年10月4日～令和6年1月8日

出 品 数：約350点

担 当：杉本厚典

共 催：（一財）大阪市文化財協会

令和3年から4年度を中心に、一般財団法人 大阪市文化財協会・大阪市教育委員会が実施した大阪市内の

遺跡発掘調査の中から、主な調査資料成果を出土遺物や写真パネルで紹介した。旧石器時代から縄文時代にかけての狩猟具（住吉区山之内遺跡）、古代～中世の建物跡と土器群（淀川区西中島7丁目所在遺跡B地点）、中世の信仰をうかがうことのできる柿経（浪速区浪速東遺跡）などを展示した。また、関連事業として「大阪の歴史を掘る2023」講演会を11月5日に実施した他、展示の内容を掘り下げる講演会「中世大阪の沿海開発と村・城館」を10月8日に行った。さらに展示解説を10月7日、11月3日、12月3日、令和6年1月6日に会場で行った。12月1日には担当者がNHK大阪「関西ラジオワイド」に出演し展覧会とイベントについて紹介して広報に努めた。

●描かれた人たち—尊崇・憧憬・追憶—

会 期：令和6年1月10日～3月4日

出 品 数：20点

担 当：岩佐伸一

古来、人は人を絵に描いてきた。それは、憧れの人として、懐かしい人として、時には人を超越した神としてであった。本展覧会では、大阪歴史博物館の収蔵品から選りすぐった“描かれた人たち”の作品を展示した。歌人として活躍した柿本人麿は後世には歌の神とされて祀られ、館蔵品を含め多くの画像が描かれた。また戦国時代に立身出世を遂げた豊臣秀吉は、没後に神として祀られることを望み、その肖像画も神を思わせる威厳のある姿に描かれた当館所蔵の作品を展示した。茶人の千利休、浄瑠璃作者の近松門左衛門ら芸道や文化に優れた人々への憧れを思わせる肖像画、その他、自身の記念として描かれた画像も当館収蔵品に含まれており、大坂の文化を肖像画から偲んでいただく機会とした。

●再発見！秀吉の大坂城—金箔瓦と家紋瓦—

会 期：令和6年3月6日～5月6日

出 品 数：175点

担 当：豆谷浩之・岡本 健

共 催：（一財）大阪市文化財協会

大坂城は、秀吉政権の考え方や仕組みを見事に体現した城であった。城内やその周辺には秀吉に従う全国の武士たちの屋敷が建ち並び、豪華な瓦や高い石垣は見る者を威圧した。屋根を美しく見せる瓦は、秀吉の城づくりに欠かせないものであった。本展では「金箔瓦」と「家紋瓦」に代表される豊臣期の瓦を展示し、よく知られているようで実はあまり知られていない秀吉の大坂城の姿を再発見する。

また、関連行事として、なにわ歴博講座「金箔瓦と家紋瓦からみた豊臣大坂城」を3月10日に、展示解説を3月30日と4月27日に実施した。

特別企画展

●展覧会名 異界彷徨—怪異・祈り・生と死—

会 期：令和5年4月28日
～6月26日

開館日数：53日

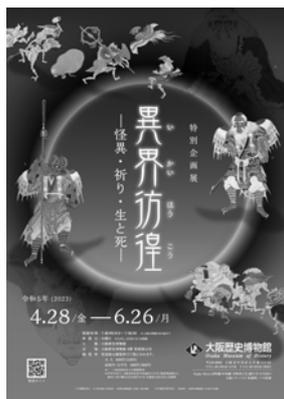
入場者数：54,067人

出 品 数：151件（430点）

担 当：俵 和馬、飯田直樹、
北上真生、李 陽浩、
岩佐伸一、
澤井浩一

主 催：大阪歴史博物館

後 援：株式会社 NTT ファシリティーズ、
株式会社 パナソニック



本展覧会は、日本人の基層文化である「異界」について、怪異伝承の構造や呪術の理論・構造、宗教的シンクレティズムなどの民俗学・人類学における研究テーマに寄せ、民俗・考古・美術・歴史などの資料を紹介するものである。序章では、異界という言葉の成立時期や語義などを解説し、それらを概観した。第1章では、さまざまな怪異譚や天狗、河童、鬼などの妖怪についてカテゴリ別に展示し、それらがどのように生まれ、表現されてきたかを資料で示した。第2章では、除災や招福のために人びとが編み出してきた呪術や、神仏との交感にかかる資料を紹介、これらを通して異界に対する心性を考えた。第3章では、年中行事や人生儀礼、葬送儀礼の事例を絡めながら、死生観にまつわる資料を広い視野から展示し、生と死に対し人がどのように臨んできたかを示した。終章では、コロナ禍以降はじめて完全な形で復活した少彦名神社神農祭の資料から、現在の私たちと異界の関係性に言及した。

◇おもな展示作品

- 邯鄲夢枕図 橋本閑雪筆 大正時代～昭和時代 大阪歴史博物館蔵（前田善衛氏寄贈）
- 天狗像 江戸時代後期～明治時代 大阪歴史博物館蔵（中尾堅一郎氏寄贈）
- 梵鐘形兜道成寺鬼女前立付 江戸時代 個人蔵
- 【重要文化財】十二天像 珍海本 鎌倉時代 大阪歴史博物館蔵（前田善衛氏寄贈）
- 九相詩絵巻 大永7年（1527）大念佛寺蔵
- 梅田墓出土遺物 江戸時代後期～明治時代 大阪市教育委員会蔵
- 【大阪府指定有形文化財】セタ 明治時代～昭和時代 西之坊蔵

◇関連行事

- 講演会「異界を覗く—日本人の幻想世界—」小松和彦氏（国際日本文化研究センター名誉教授）5月13日
- 学芸員によるスライドトーク 4月29日、5月27日、6月10日、6月24日

- 異界“生”通信（Twitter（現：X）スペースによるトーク配信）、5月27日、6月24日
- 異界投稿（来館者による投稿型イベント）4月28日～6月26日

資料収集

令和5年度は、寄贈によって新たに280件310点の館蔵品を加えた。内容は一覧の通りである。これらの収集資料にあたっては、外部に依頼した委員による資料収集委員会を開催して収集審査を行った。

●令和5年度の収蔵資料点数

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	42	0	0	42
美術	66	0	0	66
考古	1	0	0	1
民俗	0	0	0	0
芸能	198	0	0	198
建築	3	0	0	3
	310	0	0	310

●館蔵品総点数（令和6年3月31日現在）

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	83,334	9,143	86	92,563
美術	9,322	1,648	3	10,973
考古	7,235	4,765	6,178	18,178
民俗	4,917	2,485	2	7,404
芸能	11,722	1,029	3	12,754
建築	6,297	0	27	6,324
	122,827	19,070	6,299	148,196

燻蒸

博物館の新規受入資料に対する各種害虫及びカビの駆除のために、燻蒸庫燻蒸を7月、12月の計2回実施した。また、8～9月に収蔵資料の保全のために、収蔵庫内にて生物（歩行・飛翔虫）の生息状況並びに空中浮遊・付着菌類の捕獲・採集調査と目視調査を実施した。

大阪歴史博物館資料収集方針

大阪は、日本の歴史のなかで、古代から現代にいたるまで重要な役割を果たしてきた都市である。難波宮の宮殿が営まれた古代、大坂本願寺の寺内町がつくられた中世、天下の台所として繁栄した近世、そして工業都市として発展した近代・現代と多様な展開をみせた。

大阪歴史博物館は、このような「都市おおさか」の歴史を紹介する博物館であり、郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く市民に紹介し、理解を深めることを事業運営の基本方針としている。こうした趣旨に沿った資料収集は、失われゆく資料の保存・研究の観点を含めて重要なものである。よって、以下の条項に基づき博物館資料を収集する。

記

1. 難波宮とその研究史を理解する上で重要な資料を収集する。
2. 大阪の歴史と文化の発展を理解する上で重要な有形文化財、およびその理解を高める比較資料を収集する。
3. 大阪にとって芸術上価値の高い資料、およびその理解を高める比較資料を収集する。
4. 大阪に暮らす人々の生活の推移を理解するために必要な有形・無形文化財を収集する。
5. 大阪の景観、人物、無形文化財等の写真、映像などの資料を収集する。

●新収館蔵資料紹介

森川竹窓像 大野文泉筆 森川竹窓賛

文政11年(1828)賛

森川正子氏寄贈

江戸時代中後期の大阪の書家で篆刻や絵にも通じた森川竹窓(1763～1830)の肖像画です。自筆で自身の経歴を書いており、竹窓晩年の姿を伝えている貴重な作品です。描いたのは白河藩御絵師の大野文泉です。文泉は古器物を好んだ藩主松平定信の命を受けて京都や大阪へ来ており、竹窓や木村兼葭堂たちの大阪の文化人たちと広く交友していました。

(写真は部分図)



新収館蔵資料一覧

寄贈

●歴史

◇大西保氏寄贈資料

小野川辰蔵所用短刀

1点

天覧相撲拝記

1点

◇北口万理子氏寄贈資料

金子温卒業証書(大阪市立船場高等女学校)

1点

金子温成績通知票(大阪市立船場高等女学校)

4点

◇穴戸雅彦氏寄贈資料

大阪市営バス創業拾週年記念品

1点

◇林勲男氏寄贈資料

林市蔵肖像写真

1点

母之まこと

1点

日記 2603

1点

Scrap Book

2点

愛と灯をかけた人々(香川亀人署名入り)

1点

林市蔵書簡(安達宛)

1点

林市蔵名詞

4点

Photo Album

1点

勲二等瑞宝章

1点

勲三等旭日中綬章

1点

近代文化功労者顕彰記念品

1点

市域拡張30周年・6カ町村編入記念品

1点

山県有朋書簡(林市蔵宛)

1点

顕彰状(林市蔵宛)

1点

熊本県近代文化功労者

7点

民生委員精神について(林市蔵署名入り)

1点

昭和之動乱(重光葵署名入り)

2点

林市蔵先生記念像完成記念寿恵広

1点

民生委員の父林市蔵先生伝(香川亀人著)

2点

敬慕の章(林市蔵先生御遺族宛)

1点

林しげ肖像写真

2点

●美術

◇中寫ちせ子氏寄贈資料

藪鶴堂筆三行書

1点

藪鶴堂筆二行書

1点

大窪詩佛筆三行書

1点

杉江聴松筆龍虎の句

1点

篠崎小竹筆瓶梅詩

1点

古賀精里筆二行書

1点

箕山筆三行書

1点

宮川経輝筆二行書

1点

久我通久筆和歌「寄鏡祝」

1点

梁川星巖筆五行書

1点

伊藤若冲筆鸚鵡図	1点
伊藤若冲筆鶴図	1点
河鍋狂斎筆福祿寿図	1点
杉野儼山筆老木図	1点
米中南筆蘆雁図	1点
春峰筆池辺双鶴図	1点
水野燕青筆柿図	1点
笹蟹図	1点
姫島竹亭筆金魚図	1点
翠庵筆神楽図	1点
橋本苔石筆蘭図	1点
儼山人筆海辺巖	1点
澤井竹僊筆初午図	1点
杏堂筆蘭図	1点
志水蕉雨筆雪中山水図	1点
文溪清筆山水図	1点
片岡其楽筆俳画 明山功勞者表彰記念	1点
千種安兵衛筆老人六歌仙図	1点
守山湘帆筆瓶中松竹梅図	1点
田逋筆蘭図	1点
柳沢淇園筆おたふく図	1点
月儼筆山水図	1点
橋本海閑筆山水図	1点
橋本海閑・閑雪合作山水人物図	1点
鈴木松年筆夏溪閑棹図	1点
中原對山筆山水図	1点
北野恒富筆宝船図	1点
谷口藹山筆松壑觀流図	1点
松井拳堂筆達磨図	1点
児玉果亭筆秋景風景図	1点
志水蕉雨筆山水図	1点
岸駒筆虎図	1点
吉嗣拝山筆觀瀑山水図	1点
雪操筆山水図	1点
◇森川正子氏寄贈資料	
森川竹窓先生並夫人肖像 大野文泉・香川氷仙筆	2点
一行書 森川竹窓筆	1点
風竹図 森川竹窓筆	1点
竹石図 森川竹窓筆	1点
墨竹図 森川竹窓筆	1点
竹石図 森川竹窓筆	1点
竹石図 森川竹窓筆	1点
森川喜一郎肖像 石川小陰筆	1点
神戸名所 長野利助筆 森川印刷所製	13点

●考古

◇森忠彦氏寄贈資料	
マジョリカ陶器 色絵フォグリー文 アルバレルロ	1点

●芸能

◇三田村晴夫氏寄贈資料	
藤間流舞踊譜本 葵の上	1点
藤間流舞踊譜本 梓弓	1点
藤間流舞踊譜本 有馬猫	1点
藤間流舞踊譜本 有馬双紙	1点
藤間流舞踊譜本 有馬双紙	1点
藤間流舞踊譜本 紫陽花	1点
藤間流舞踊譜本 因幡堂	1点
藤間流舞踊譜本 妹背山	1点
藤間流舞踊譜本 入相桜	1点
藤間流舞踊譜本 浮気聳	1点
藤間流舞踊譜本 浮世の朝	1点
藤間流舞踊譜本 江戸土産	1点
藤間流舞踊譜本 江戸土産	1点
藤間流舞踊譜本 扇獅子	1点
藤間流舞踊譜本 教草吉原雀	1点
藤間流舞踊譜本 お七人形	1点
藤間流舞踊譜本 小原女	1点
藤間流舞踊譜本 景清	1点
藤間流舞踊譜本 景清廓通	1点
藤間流舞踊譜本 景清五條坂廓通	1点
藤間流舞踊譜本 菊の精霊	1点
藤間流舞踊譜本 吉三狂乱	1点
藤間流舞踊譜本 恋角力蛙の土俵	1点
藤間流舞踊譜本 膏薬角力	1点
藤間流舞踊譜本 心の鏡	1点
藤間流舞踊譜本 五段目狐拳	1点
藤間流舞踊譜本 大森彦七	1点
藤間流舞踊譜本 胡蝶の舞	1点
藤間流舞踊譜本 昆布売	1点
藤間流舞踊譜本 桜狩	1点
藤間流舞踊譜本 桜狩 男舞	1点
藤間流舞踊譜本 桜の春	1点
藤間流舞踊譜本 三国妖狐物語 那須塩原	1点
藤間流舞踊譜本 三社祭	1点
藤間流舞踊譜本 三段目門外	1点
藤間流舞踊譜本 四季三葉草	1点
藤間流舞踊譜本 三人仕丁（仕丁）	1点
藤間流舞踊譜本 忍車	1点
藤間流舞踊譜本 下田時雨	1点
藤間流舞踊譜本 蛇の目傘	1点
藤間流舞踊譜本 雀	1点
藤間流舞踊譜本 須磨の浦 下の巻	1点

藤間流舞踊譜本 墨ぬり 三人舞	1点	藤間流舞踊譜本 紅葉狩	1点
藤間流舞踊譜本 墨ぬり 三人舞	1点	藤間流舞踊譜本 紅葉狩 二人舞	1点
藤間流舞踊譜本 殺生石	1点	藤間流舞踊譜本 桃太郎	1点
藤間流舞踊譜本 園の梅 白拍子二人舞	1点	藤間流舞踊譜本 桃太郎道行	1点
藤間流舞踊譜本 染分手綱	1点	藤間流舞踊譜本 八嶋官女	1点
藤間流舞踊譜本 千本桜道行	1点	藤間流舞踊譜本 奴道成寺	1点
藤間流舞踊譜本 大黒天	1点	藤間流舞踊譜本 吉野静	1点
藤間流舞踊譜本 対面花春駒	1点	藤間流舞踊譜本 淀君	1点
藤間流舞踊譜本 高時天狗舞	1点	藤間流舞踊譜本 乱菊	1点
藤間流舞踊譜本 高砂の松	1点	藤間流舞踊譜本 乱菊	1点
藤間流舞踊譜本 高山彦九郎	1点	藤間流舞踊譜本 蘭蝶廓通ひ	1点
藤間流舞踊譜本 宝の土産	1点	藤間流舞踊譜本 蘭平物狂	1点
藤間流舞踊譜本 多摩川	1点	藤間流舞踊譜本 長唄一人舞色々八番	
藤間流舞踊譜本 玉藻前	1点	大和だんご他	1点
藤間流舞踊譜本 太郎又三ツ面	1点	藤間流舞踊譜本 長唄一人舞七番 新紅葉狩他	1点
藤間流舞踊譜本 釣女	1点	藤間流舞踊譜本 一人舞長唄 女猿曳他	1点
藤間流舞踊譜本 釣狐	1点	藤間流舞踊譜本 長唄一人舞拾番色々	
藤間流舞踊譜本 常磐老松	1点	花川戸助六他	1点
藤間流舞踊譜本 常磐老松	1点	藤間流舞踊譜本 長唄一人舞 おかる他	1点
藤間流舞踊譜本 供奴足拍子	1点	藤間流舞踊譜本 長唄一人舞 手習他	1点
藤間流舞踊譜本 鳥さし	1点	藤間流舞踊譜本 長唄一人舞二番 汐汲・色草	1点
藤間流舞踊譜本 名大津絵劇交張	1点	藤間流舞踊譜本 長唄一人舞 とんび奴他	1点
藤間流舞踊譜本 浪花獅子	1点	藤間流舞踊譜本 長唄一人舞七番 とんび奴他	1点
藤間流舞踊譜本 業平餅	1点	藤間流舞踊譜本 長唄合舞三組 風流陣他	1点
藤間流舞踊譜本 二人浦嶋	1点	藤間流舞踊譜本 長唄合舞舞踊七番 浜千鳥他	1点
藤間流舞踊譜本 二人浦嶋	1点	藤間流舞踊譜本 長唄の踊四番 軒端の松他	1点
藤間流舞踊譜本 二人三番叟	1点	藤間流舞踊譜本 長唄(合舞) 三国妖狐・	
藤間流舞踊譜本 二人大名	1点	楠公桜井	1点
藤間流舞踊譜本 乗合船恵方万歳	1点	藤間流舞踊譜本 長唄合舞四番 末広狩他	1点
藤間流舞踊譜本 俳諧師	1点	藤間流舞踊譜本 長唄合舞六組 連獅子他	1点
藤間流舞踊譜本 裸閻魔	1点	藤間流舞踊譜本 長唄(合舞) 紀州道成寺他	1点
藤間流舞踊譜本 花子	1点	藤間流舞踊譜本 長唄合舞 紅葉狩他	1点
藤間流舞踊譜本 花の友	1点	藤間流舞踊譜本 長唄合舞五番 末広狩他	1点
藤間流舞踊譜本 羽根突禿	1点	藤間流舞踊譜本 長唄合舞 五郎廓通他	1点
藤間流舞踊譜本 浜千鳥	1点	藤間流舞踊譜本 長唄合舞四番 蓬萊他	1点
藤間流舞踊譜本 髭男	1点	藤間流舞踊譜本 長唄合舞 元禄花見踊他	1点
藤間流舞踊譜本 福山三ツ面	1点	藤間流舞踊譜本 長唄三組合舞	
藤間流舞踊譜本 富士太鼓	1点	連獅子上下二段他	1点
藤間流舞踊譜本 船揃ひ	1点	藤間流舞踊譜本 長唄合舞 菖蒲浴衣他	1点
藤間流舞踊譜本 船弁慶	1点	藤間流舞踊譜本 長唄合舞六組 正札草摺他	1点
藤間流舞踊譜本 船渡り髯	1点	藤間流舞踊譜本 長唄合舞八番常盤津一番	
藤間流舞踊譜本 六歌仙の内文屋	1点	桜狩他	1点
藤間流舞踊譜本 弁天小僧	1点	藤間流舞踊譜本 長唄常盤津(合舞)	
藤間流舞踊譜本 辨天娘	1点	宝の入舟他	1点
藤間流舞踊譜本 松島	1点	藤間流舞踊譜本 常盤津舞踊本(一人舞)	
藤間流舞踊譜本 都の錦	1点	三ツ面子守・梶原源太	1点
藤間流舞踊譜本 虫の色草	1点	藤間流舞踊譜本 常盤津合舞ト一人舞	
藤間流舞踊譜本 明治昭和 小唄踊り	1点	吉野下り・葛の葉	1点
藤間流舞踊譜本 面	1点	藤間流舞踊譜本 常盤津(合舞) 江戸土産・	

資料のデータ整備・特別観覧・貸出し

データ整備

●写真撮影

本年度は10点（美術工芸資料4点、建築資料6点）の館蔵資料について撮影を行った。

●図書を受入

本年度は新たに2,751件の新規登録を行った。内訳は、国内外の関係機関・個人からの寄贈2,625件、特別観覧献本40件、購入77件、自主刊行物の登録9件であった。

蔵書は当館2階の学習情報センター「なにわ歴史塾」において閲覧サービスを行っている。

特別観覧

令和5年度は撮影23件（699点）、実測2件（37点）、閲覧26件（733点）、掲載・掲出116件（282点）、放映37件（271点）、デジタルオンデマンド67件（185点）、その他6件（11点）の計276件（2039点）の特別観覧があった。

※（ ）内は資料点数。件数・点数ともに重複を含む。

館蔵資料の貸出し

令和5年度に他機関の貸出希望を受諾した資料数は下に掲げた表の通りである（15件47点）。

	申請者	数	展覧会名称	貸出期間
1	三井記念美術館 岡崎市美術博物館 静岡市美術館 (株)NHKプロモーション	2	NHK大河ドラマ特別展「どうする家康」	(関ヶ原合戦図屏風) 令和5年3月7日～9月25日 (内府ちがいの条々) 令和5年3月7日～12月21日
2	京都市京セラ美術館 (京都市美術館)	2	京都市美術館開館90周年記念展 「竹内栖鳳 破壊と創生のエネルギー」	令和5年9月15日～11月10日
3	犬山城白帝文庫	1	特別展「家康・秀吉と成瀬正成」	令和5年9月29日～12月13日
4	公益財団法人 西宮市大谷記念美術館	5	「画人たちの仏教絵画—如春斎再び!—」	令和5年10月13日～11月30日
5	鳥根県立古代出雲歴史博物館	3	令和5年度企画展「伊勢と出雲」	令和5年9月26日～12月19日
6	佐賀県立名護屋城博物館	1	名護屋城博物館開館30周年記念特別企画展 「新時代へのかけはし—文禄・慶長の役から 国交回復へ—」	令和5年9月7日～11月14日
7	東京国立博物館 NHK NHKプロモーション 読売新聞東京本社	3	特別展 「やまと絵—受け継がれる王朝の美—」	令和5年9月20日～12月22日
8	国立歴史民俗博物館	1	企画展示「陰陽師とは何者か —うらない、まじない、こよみをつくる—」	令和5年9月4日～令和6年1月9日
9	九州国立博物館	1	特集展示「高麗・朝鮮時代の仏教美術」	令和5年8月16日～10月26日
10	大阪中之島美術館 産経新聞社 関西テレビ放送	2	「決定版!女性画家たち的大阪」	令和5年10月2日～令和6年3月7日
11	吹田市立博物館	7	令和5年度秋季特別展 「大阪好みを描く 呉春から孔寅・芳園へ」	令和5年10月6日～12月16日
12	高槻市立しろあと歴史館	4	高槻市市制施行80周年記念・ 高槻市立しろあと歴史館開館20周年記念 特別展「高槻城主列伝」	令和5年9月29日～12月13日
13	田辺市立美術館	4	特別展「木村葦堂と紀州の文人たち」	令和6年1月31日～3月28日
14	奈良県立 橿原考古学研究所附属博物館	1	特別陳列「刀匠・河内國平の仕事 —古代刀剣の復元から現在の作刀まで—」	令和6年1月26日～3月27日
15	大阪府立弥生文化博物館	10	令和5年度冬季特別展「紀元—世紀の社会変革 —弥生後期のはじまりをさぐる—」	令和6年1月15日～3月25日

教育普及事業

講座・見学会

●なにわ歴博講座

- 9月3日 「『装剣奇賞』の世界—江戸時代の刀装具と根付—」内藤直子 31名
10月15日 「円柱、角柱、エンタシス—古代のいろんな柱—」李陽浩 21名
11月19日 「文化財3Dデータ化の最新事情と課題」加藤俊吾 12名
12月10日 「小河滋次郎とセツルメント」飯田直樹 8名
1月14日 「河内源氏『武家の棟梁』の源」谷口正樹 108名
2月18日 「淀川河口部の祭りと神饌」澤井浩一 41名
3月10日 「金箔瓦と家紋瓦からみた豊臣大坂城」岡本健 58名

●「なにわの日」講演会（大阪市文化財協会と共催）

- 7月28日 「難波宮跡における発掘調査の最新成果」植木久氏（大阪市教育委員会）「難波京朱雀大路を探して」村元健一 106名

●考古学入門講座 なにわ考古学散歩「淀川と神崎川—新大阪駅界隈の遺跡を歩く—」

- 10月28日 7名、11月4日 6名、12月2日 10名
寺井誠・北上真生・谷口正樹・李陽浩

●連続講座「極める！難波宮」

- 9月8日 第1回「激動の7世紀—難波遷都前後の東アジア—」寺井誠 100名
9月22日 第2回「上町台地を歩いてみよう—地形で感じる難波宮—」寺井誠 55名
10月27日 第3回「複数の京—難波京と複都制—」村元健一 68名
11月24日 第4回「古代のなにわと難波宮」李陽浩 74名
12月15日 第5回「難波京の痕跡を求めて」豆谷浩之 65名
1月26日 第6回「難波宮はどこに？近世の考証を中心に」豆谷浩之 61名
2月23日 第7回「前期難波宮の八角殿と東アジア」李陽浩 61名

●大坂の陣 激戦地を歩く

- 10月22日 「鳴野・今福の戦いをたどる」30名
11月11日 「岡山から真田丸・惣構へ」29名
12月17日 「玉手山・道明寺の戦い」24名
大澤研一・谷口正樹・岡本健

●「おおさか街歩きキタ・ミナミ」

- 10月6日 第1回：キタ編 6名
10月20日 第2回：ミナミ編 9名
阿部文和・島崎未央・李陽浩

●古文書講座「絵図と史料で読む大坂の歴史」

- 1月28日 53名、2月3日 49名、2月10日 50名、
2月17日 49名 島崎未央

●はじめての歴史散歩

- 「大阪城」
10月14日 7名、12月9日 12名、3月2日 21名
阿部文和・岡本健
「難波宮」
10月7日 12名、11月25日 14名、2月24日 20名
豆谷浩之・安岡早穂・杉本厚典

●学芸員が語る日本美術入門

- 10月21日 18名、2月16日 20名
中野朋子・内藤直子・岩佐伸一

特別展・特集展示等関連の講演会・展示解説

◇特別企画展「異界彷徨—怪異・祈り・生と死—」

- 講演会
「異界を覗く—日本人の幻想世界—」小松和彦氏（国際日本文化研究センター名誉教授）5月13日 227名
- スライドトーク
4月29日 80名、5月27日 120名、6月10日 145名、
6月24日 143名
- 異界“生”通信(オンライン)Twitterスペース
5月27日 95名、6月24日 105名

◇特集展示「ナニコレ？のこうこがく」

- 「ちぎり絵うちわづくり」7月15日 3名、8月5日 10名、9月16日 3名
- 「ナニコレ？クイズラリー」8月13日 7名、9月17日 2名

◇特集展示「新発見！なにわの考古学2023」

- 「大阪の歴史を掘る2023」講演会（大阪市文化財協会と共催）
「大阪市内の発掘調査成果—令和4年度を中心に—」平田洋司（大阪市文化財協会）
「戦国都市大坂—本願寺寺内町の周辺都市の発展—」仁木宏氏（大阪公立大学教授）11月5日 76名
- 展示解説
10月7日 8名、11月3日 32人、12月3日 33名、
1月6日 18名

◇特集展示「再発見！秀吉の大坂城—金箔瓦と家紋瓦—」

- 展示解説
3月30日 39名

“なにわ歴博”わくわく子ども教室事業

本事業は主に小学生・中学生を対象とし、ゴールデンウィーク、夏休み期間中等に行った。

- ①「ふわふわの綿花からタネを取り出そう！@れきはくコットンプロジェクト」
5月3日 74名、5月4日 42名

②「～なりきり三英傑～戦国武将のお面を作ろう」

5月5日 24名

③「さわって作って！ナニコレ？のこうこがく」

7月29日 8組20名

④「組みひもにチャレンジ！」 8月11日 15組22名

⑤「凧づくりと凧あげ」 1月27日 14組23名

ハンズオン

常設展の展示テーマにちなみ、展示物やそのレプリカ等に触れ、体験する事業として、下記を実施した。

むかしの瓦の拓本体験

10月14日 23名、11月11日 17名、12月9日 20名、

1月13日 18名、2月10日 22名、3月9日 25名

その他

兵庫県播磨町主催「第31回大中遺跡まつり」(11月4日)に「和同開珎の拓本でしおりづくり」のブースを出展し、多数の参加者を得た。

難波宮遺跡探訪

令和4年5月から再開した難波宮の遺跡案内は、令和5年度も15時の回のみ20人定員で学芸員による解説を実施した。5世紀の復元倉庫公開は行わなかった。

謎解きゲーム・巡礼クイズ

●リアル歴史巡礼クイズ

「五代友厚と歩く 幕末・明治の大阪」(10月30日で終了) 59名

学習情報センター「なにわ歴史塾」

当館2階の無料空間内にある。映像ソフト約100件の閲覧、「昔の大阪」写真ライブラリー約7,000枚の閲覧、開架図書約6,000冊の閲覧、学芸員による学習相談に応じた。検索端末を利用した館蔵図書検索や大阪市内博物館・美術館ホームページ閲覧などのコーナーを用意し、市民の歴史学習を支援するとともに、利用案内リーフレットの作成、「なにわ歴史塾ブログ」・掲示板や新着図書コーナー・わくわく子ども教室コーナーの随時更新など、利用推進を図った。また今年度も司書を中心にして、「博物館でみつけた!ゆるかわキャラ」(3/29～5/14)、「てくてくお散歩」(5/18～7/2)、「自然と生きものに触れよう」(7/6～8/27)、「関東大震災から100年」(8/31～10/15)、「読んで調べて 歴史を知ろう 最初の天下人三好長慶」(10/19～12/3)、「源氏物語の世界」(12/7～2/11)、「桜見に行こう」(2/15～3/31)の7回の特集を企画し、関連書籍を配架した。令和5年度より開室日が木・金・土・日曜日の週4日へ変更となった。入室者数は13,038名、書庫出納件数は162件、複写利用件数は264件であった。

学校連携事業

学校教育との連携をはかるために、学校における進路学習のための職場体験学習等を受け入れている。また、大学からの博物館実習・見学実習の受け入れを行った。

●学校職員の研修の受け入れ

◇大阪市教員研修(主催:大阪市教育センター)

8月7日 大阪市立学校園教職員47名

市立の校園に勤務する教員が大阪の歴史・文化への理解を深め、地域学習のための素材を提供するとともに大阪歴史博物館の活動を理解し利用を促進するために、大阪市教育センター主催の連携研修を実施した。今回は「大阪歴史博物館の取り組み事例から」と題して、当館が教育の現場に提供した大阪の地域学習にかかる実例を大阪市立中大江小学校指導教諭や当館学芸員によって紹介した。また、本事業は大阪市博物館機構主催「教員のための博物館の日」(参加者21名)を兼ねるものであった。

●学校団体(小中学校および高等学校)への教育支援および職業体験の受け入れ

6月14・15日 大阪市立天満中学校2名 職業体験

7月6日 大阪府立高津高校 職場訪問

7月19日 大阪府立芦間高校 職場訪問

7月28・29日 大阪府立桜和高校2名 職業体験

11月16・17日 大阪市立桜宮中学校3名 職業体験

12月27日 関東学院六浦高等学校 研修支援

1月30日 大阪府立大阪南視覚支援学校 出張授業(考古学)

2月2日・3月1日 大阪市立中大江小学校 出張授業(綿繰り体験)

●考古学体験教室

令和5年度は「瓦の拓本」と「難波宮遺跡探訪(学芸員による遺跡案内)」を実施した。実施にあたっては、小学校高学年を対象とし、希望する学校の調整には大阪市小学校社会科研究会の協力を得た。11月15・16・17日に、7校456名の児童を受け入れた。

●博物館実習の受け入れ

博物館法および博物館法施行規則に基づく学芸員資格取得のための博物館実習は12大学50名を受け入れ2期に分けて実施した。なお、公の施設における市民サービスの公平性および受益者負担の考え方から、実習に要する費用として1人あたり5,000円を徴収した。

◇8月21日～25日 大阪公立大学18名、大谷大学1名、佛教大学2名、関西学院大学1名、同志社大学1名、桃山学院大学1名(計24名)

◇8月28日～9月1日 大阪大学18名、奈良大学4名、

京都橘大学1名、甲南女子大学1名、帝塚山学院大学1名、立命館大学1名（計26名）

◇見学実習は、関西大学、大阪成蹊大学、京都女子大学、立教大学、奈良女子大学、大阪商業大学、近畿大学の7大学から合計255名を受け入れた。

●その他

2月5日職場インタビュー対応（大阪公立大学学生）

ボランティア関連事業

●ボランティアの見直し

大阪歴史博物館では、市民参加型の開かれた博物館活動の重要な事業の一つとして、開館以来ボランティアを導入してきた。しかし、令和2年2月以後、コロナ禍により従来の活動休止を余儀なくされ、その間に今後のあり方について検討を進めてきた。その結果、これまでのボランティア組織を一旦解散し、新たな活動内容をもとに新規募集することとした。5月14日に解散式を開催し、大澤館長から感謝状を贈呈した。

●新規ボランティアの募集

コロナ以後の活動内容の見直し、および博物館をめぐる近年の課題等を考慮して、以下の2つの内容で新たな活動を開始し、募集を行うこととした。

- ・展示室サポーター 展示室に常駐して、困っている方への声かけや簡単な質問への対応、展示場の見回りなど、来館者のサポートを行う。募集人数200名程度
- ・難波宮遺跡ガイドサポーター 博物館の地下に保存された古代の宮殿・難波宮の遺跡を案内・解説するガイドツアーを担当する。募集人数40名程度。

ボランティア募集関係の日程は下記の通り。

募集の告知 11月17日

応募説明会 12月14・16・18日（各日2回、計6回）

応募締切 1月19日

面談選考 2月7・8・10・11日

基礎研修（第1日） 2月25・26日

（第2日） 3月3・4・10・11日

専門研修（※難波宮遺跡ガイドサポーター対象）

3月3日、4日、8日、9日、13日、16日、17日、20日、21日、24日、25日、28日のうち少なくとも1回参加

活動開始 令和6年4月3日

168名の応募があり、辞退者を除く164名をボランティアとして登録した。

連携事業・大阪歴史博物館友の会との連携

博物館群等の連携事業

大阪市の博物館・美術館等の施設が連携し、大阪の魅力をアピールするための事業を実施した。前年に引き続き地方独立行政法人大阪市博物館機構事務局による推進体制をとり、当館もそれに参画した。

●ミュージアム連続講座2023「大阪 水辺をめぐる物語」 （主催：大阪市博物館機構ほか）

大阪市立難波市民学習センターにおいて3月7日から3週連続1日2講座（計6講座）開催された。当館の俵和馬が3月21日に「水と人の環境民俗論—大阪府下の事例から—」と題して講演した（参加者46名）。

●OSAKA MUSEUMS学芸員TALK & THINK(Web開催)

大阪市博物館機構に属する6館の学芸員による連続講座に講師を派遣した。2月16日「おおさか“派手好き”の真実を探る」中野朋子、2月22日「なにわと油火」松本百合子、2月26日「描かれた人たち—大坂と京都の肖像画を読み解く—」岩佐伸一、2月27日「灯明油の生産と流通—江戸の夜を支えた大坂—」島崎未央、3月4日「古代なにわの魚とり」安岡早穂

●広報誌「Osaka Museums」

大阪市博物館機構内の6つの博物館・美術館と、機構と連携協定を結ぶ（一財）大阪市文化財協会の情報を掲載した広報誌25～28号を発行し、当館も情報を提供し掲載した。

●教員のための博物館の日2023

大阪市博物館機構事務局が主催し、教員向けに大阪市内の博物館・美術館を紹介する「教員のための博物館の日」に例年参加している。今年度は8月7日に実施し、参加者は21名だった。

同事業に関連し、11月22日に国立科学博物館が主催した「教員のための博物館の日2023」オンラインミーティングに当館からも参加し、全国の参加館と交流を深めるとともに情報交換を行った。

大学との連携事業

●キャンパスメンバーズ制度

大阪市博物館機構の取り組みの一環としてキャンパスメンバーズ制度を導入しており、本年度は、公立大学法人大阪、大阪大学、大阪教育大学付属高等学校天王寺校舎、大阪府教育センター付属高等学校が会員となり、年間利用者は順に484名、544名、4名、0名の合計1,032名であった。

●大阪公立大学との連携

大阪市博物館機構が法人として大阪公立大学と締結している包括連携協定事業に基づき実施される、下記の事業に参加した。

大阪公立大学開講の博物館関連講義へ下記の学芸員を派遣した。

- ・博物館経営論：大澤研一
- ・博物館資料保存論：松本百合子、寺井 誠

- ・博物館展示論：澤井浩一、豆谷浩之、村元健一、飯田直樹、阿部文和

また、3月2日に当館講堂で開催された博学連携講演会「森ノ宮には何があった？—大阪の「ヒガシ」の歴史をさぐる—」（主催：大阪公立大学・大阪市博物館機構・大阪市文化財協会）に、当館から講師を派遣した。李陽浩「難波宮を東に降る—上町台地東辺の歴史的環境—」、大澤研一「絵図・絵画にみる江戸時代の森ノ宮—武家の地と都市民の行楽地—」。参加者 230 名。

地域・その他の連携事業

● NPO 法人まち・すまいづくりとの連携

NPO 法人まち・すまいづくりと共催で、日本風の会大阪の協力のもと、なにわ歴博わくわく子ども教室「凧づくりと凧あげ」（1月27日）を実施した。また、あべのハルカス等での広報事業においても協力を得た。

● クラブツーリズムとの連携

クラブツーリズムと連携し、マイクロツーリズムをはじめとした旅行企画を定期的に関発、販売、実施した。令和5年度には、「海賊たちの戦国時代」(6/4 26名参加)、「歩いてめぐる南都七大寺の仏像」(4/7 13名、5/12 17名参加)、「戦国時代を終わらせた男 家康の決断と戦い」(9/16 21名、12/7 9名参加)、「古代最大の内乱—壬申の乱—を追体験」、(1/21 34名、3/23 29名参加)、「大和の神々を巡る旅」(10/6 24名、11/10 20名、12/15 10名、1/19 14名、2/9 6名、3/8 11名参加)を企画・実施した。

● 関西文化の日

11月20日に実施し、常設展示の観覧料を無料とした。計 1,046 名の観覧者があった。

● 関西考古学の日 2023（主催：「関西考古学の日」実行委員会）

9月1日～11月30日 スタンプラリー・景品授与

● 大阪迎賓館との連携

7月27日と8月3日に大阪迎賓館とタイアップしたナイトツアーを開催した。参加人数の総計は 51 名だった。

● はじめてフェスへの参加

3月24日に難波宮跡公園「みんなのにわ」プロジェクトが主催し難波宮跡で開催された「はじめてフェス」にブース出展し、「はじめての考古学パズル」を開催した。参加者は 43 名だった。

● NHK 大阪放送局との連携

- ・5月20・21日 アトリウムで開催された「高知らんまん祭り in NHK 大阪」に、「天狗と撮ろう！フォトブース」を出展した。特別企画展「異界彷徨」の展示品である「天狗像」の切り出しパネルを設置した。
 - ・11月3～5日にアトリウムで開催された「BK 大感謝祭」に、難波宮跡に関するブース出展を行い、大極殿の組物の展示や解説パネルを設置、難波宮ジグソーパズル・土器パズルの体験コーナーを設け、多くの参加を得た。またステージトークに学芸員が登壇し、難波宮の解説を行った。当館エントランスでは、NHK 大河ドラマで使用された甲冑、大砲の展示、関ヶ原合戦・大阪の陣に関する VR 体験会を実施した。
 - ・建物外周・アトリウムの新たな広報・案内掲示について連携をはかった。
- ### ● 喜連村史の会との連携
- 市民団体「喜連村史の会」が主催した歴史ウォーク（12月2日、3月2日）を後援した。

令和5年度 普及事業の回数（日数）と参加者数

事業	個別事業名	回数	参加人数
教育普及事業	講座・見学会その他	37	1,644
	特別展・特集展示・常設展示、講演会・展示解説	18	1,146
	なにわ歴博 わくわく子ども教室事業	6	205
	石組み水路公開・AR 難波宮	0	0
	難波宮遺跡探訪・復元倉庫の公開	144	1,079
学校連携事業	学校職員の研修の受入れ	1	68
	教育支援（職場訪問）	4	15
	教育支援（出前授業）	2	112
	職業体験	3	7
	考古学体験教室	7	456
	博物館実習・見学実習の受入れ	9	306
地域・その他連携事業	共催事業ほか	2	337
ボランティア関連事業	ボランティア活動	0	0
合計		233	5,375

共催事業

●第39回歴史学入門講座（主催：第39回歴史学入門講座実行委員会）

7月9日 「出土文字から新しい古代史の構築」平川南氏（国立歴史民俗博物館名誉教授・日本古代史）107名

●大阪と世界の歴史 & 交流ツアー クイズで世界一周！ @大阪歴史博物館（主催：公益財団法人大阪観光局）

7月15日 30名

●(地独)大阪市博物館機構・(一財)大阪市文化財協会連携事業

「中世大阪の沿海開発と村・城館」～最新の発掘成果と古地形復元を基に～ 講演会

10月8日

「発掘調査からみた中世大阪の沿海開発一難波砂堆」南秀雄（大阪市文化財協会）「淀川三角州の耕地開発一南中島地域」櫻田小百合氏（大阪市教育委員会）

「東アジア海域の沿海低地開発と大阪」小山田宏一氏（大阪府立狭山池博物館長）「文献・絵図にみる中世後期～近世初期の大阪沿海開発一木津を中心に」大澤研一「地形環境からみた中世大阪の城館」岡本健「質疑・応答」司会・進行 杉本厚典 103名

●第13弾なにわの宮リレーウォーク（主催：なにわの宮リレーウォーク実行委員会）

11月23日 講演会「家康と大坂」「家康は大坂城をどう攻めたか」大澤研一 109名

●難波宮発掘開始70周年記念講演会「難波宮研究の現在地」

2月17日 開会挨拶 中尾芳治（元帝塚山学院大学教授）「前期難波宮と飛鳥宮、藤原宮の内裏」積山洋（大阪市文化財協会）「後期難波宮大極殿と平城宮大極殿」李陽浩「難波宮・京の調査研究および保存活用の現状と課題」田中裕子（大阪市教育委員会）226名

「大阪歴史博物館友の会」との連携

「大阪歴史博物館友の会」は平成26年以降、自主運営団体として活動している。当館からは役員として顧問を派遣しているほか、幹事会での助言や総会での講演、見学会への講師派遣を行ってきた。今年度は、講演会・見学会4回について講師を派遣し協力した。令和5年度の会員数は150名（家族会員を含む）であった。

文化庁補助金による取り組み

令和5年度文化庁文化芸術振興費補助金「Innovate MUSEUM 事業」

ミュージアム活性化実行委員会を、当館および地方独立行政法人大阪市博物館機構事務局・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市立自然史博物館・大阪中之島美術館・大阪市立科学館・一般財団法人大阪市文

化財協会・公益財団法人大阪国際交流センター・公益財団法人大阪観光局・大阪市立中央図書館で構成し、当館は中核館として参画した。

大阪・関西万博に向けて、博物館機構全体で推進する館蔵資料のデータベース構築、アーカイブ化を進め、重要文化財「関ヶ原合戦図屏風」の高精細画像等の写真データを作成した。

展示改修計画

令和3年度に策定した展示改修基本計画に基づき、特別展示室の壁面ケースと独立ケースの一部を改修した。工事は文化庁、文化財活用センターとの協議を経て7月に着工し、年度内に終了した。改修ケースは9月・10月・11月・1月に空気環境測定を行い、いずれも良好な結果を得た。

民間連携事業

令和4年度の文科省委託事業「文教施設による多様なPPP/PFIの先導的開発事業」を受け、博物館の付加価値向上と来館者層の拡大に向け、ミュージアムショップやレストランを含む新規事業連携に関するプロポーザルを実施し、2月に事業者として歴博魅力創造パートナーズ（株式会社JTBコミュニケーションデザイン他コンソーシアム）を選定した。

広報宣伝活動

館の活動を広くPRし、来館者を誘致するため、報道各社や雑誌・情報サイト等各方面へ積極的に情報提供を行い、交通機関等への広告の掲出も行った。主要な活動は下記のとおりである。

定例広報事業

●情報提供

各方面からの問い合わせにともなう本年度の情報提供件数は、特別展・特別企画展関係が71件、特集展示関係が139件、館全体に関する内容・その他が84件であった。

年間展示予定はホームページ上にてPDF形式で公開した。

その他の広報宣伝事業

●X（旧Twitter）での情報発信

館の公式アカウントで展覧会、催事、トピックス等、日々の情報を発信した。ツイート数は396件、3月31日現在フォロワー数は11,281名である。

● Instagram での情報発信

館の公式アカウントで展覧会、催事、トピックス等、日々の情報を発信した。3月31日現在、投稿数は262件、フォロワー数は2,910名である。

● YouTube 公式チャンネルでの動画公開

当館のYouTube公式チャンネルにおいて、「しげしげレキハク」#17～20ほか計8本を公開し、これまでに公開された動画数は計62本となった。3月31日現在フォロワー数は1,160名である。

● ホームページの公開

ホームページでは特別展・特別企画展・特集展示の開催概要や出品資料などの情報と、各展覧会に関わる講演会をはじめとした関連イベントの案内情報を逐次公開しており、本年度は当館のホームページに740,456件、1日平均2,023件のアクセスがあった（前年度比で約157%）。また、1日の最大接続件数は3,962件（令和6年3月17日）であった。このほかに携帯電話を対象とするモバイルサイト（上記ホームページアクセス件数を含む）や、外部サービスを利用した「なにわ歴史塾ブログ」を継続運用している。

刊行物

令和5年度は下記3点を刊行した。

● 『大阪歴史博物館研究紀要 第22号』

A4判166頁、令和6年3月

● 『大阪歴史博物館館蔵資料集 19 興上清雅』

A4判90頁、令和6年3月

● 『大阪歴史博物館年報 令和4年度』

A4判24頁、令和5年10月

調査研究活動

大阪歴史博物館調査研究事業

調査研究事業は、年々高まる市民の方々の歴史に対する関心に応えるため、日常的な資料調査やテーマ研究を通じて成果を蓄積し、広く都市大阪の歴史的特質の解明に関わる検討を行うことを目的としている。とくに当館においては、難波宮の置かれた古代、商工都市として栄えた近世・近代の大阪の研究を重視して、「難波宮研究」および「大阪学研究」を課題とする。今年度は共同研究においては3テーマ、基礎研究においては1テーマを実施した。

● 共同研究

◇ 浄照坊所蔵文化財の悉皆調査並びに研究

担当：北上真生、中野朋子、岩佐伸一、谷口正樹

◇ 中世後期の大阪市域における平地城館跡・環濠集落跡等の基礎的研究

担当：岡本 健、谷口正樹、大澤研一

外部研究員：松尾信裕 氏（関西近世考古学研究会）

◇ 宗教に注目した前期難波宮の在来的要素についての基礎的研究

担当：村元健一、李 陽浩

外部研究員：積山 洋 氏（大阪市文化財協会）

● 基礎研究

◇ 大阪と江戸・東京との都市比較史研究

担当：豆谷浩之

科学研究費助成事業による研究

【研究代表者】

◇ 基盤研究（C）：中野朋子

「藪明山の薩摩焼上絵付の技術革新と工房経営に関する研究」

◇ 基盤研究（C）：内藤直子

研究分担者：岩佐伸一

「京金工・大月光興の研究—「文人金工」像の確立のために」

◇ 基盤研究（C）：澤井浩一

研究分担者：中野朋子

「『陶業時報』にみる大阪・瀬戸物町における陶磁器商の活動に関する研究」

◇ 基盤研究（C）：寺井 誠

「タタキ板およびタタキ技法の復元を基にした異文化受容の多様性の研究」

◇ 基盤研究（C）：李 陽浩

「ゴヒラ使いの消長からみた古代建築の構法的变化に関する実証的研究」

◇ 基盤研究（C）：加藤俊吾

「文化資源としての伝世陶磁器3Dモデル作成の手法構築と普及」

◇ 基盤研究（C）：杉本厚典

研究分担者：豆谷浩之

「産業マップ作成による江戸・大坂の産業分布構造のモデル化」

◇ 基盤研究（C）：飯田直樹

「児童保護を軸に福祉史を書き換える。—孤児院・小河滋次郎・セツルメント—」

◇ 若手研究：島崎未央

「都市大坂を拠点とする油・植物の流通構造」

【外部機関の研究分担者】

◇ 基盤研究（A）：李 陽浩、村元健一

研究代表者：網 伸也 氏（近畿大学）

「東アジア古代都城と都市網の宗教空間に関する総合的・比較史的研究」

◇ 挑戦的研究（萌芽）：岩佐伸一

研究代表者：井上智勝 氏（埼玉大学）

「東アジアにおける影幀を用いた人霊祭祀研究に対する方法論の構築」

個人の調査研究活動

●大澤研一

・専門分野

- (1) 日本中世史、大阪地域史
- (2) 都市史、中世史
- (3) 都市的集落の形成と変容過程・空間構造、経済・宗教機能、対外交流について

・著述

共編著『【築城四百年】徳川大坂城をさぐる 城・人・城下町』「徳川大坂城の普請と大坂町人」清文堂、pp.187-213、令和5年12月

「商人と水郷のまち・近江八幡」『近畿文化』870号、近畿文化会事務局、pp.8-10、令和5年4月

「『戦国仏教』としての「大念仏宗」」『ヒストリア』300号、大阪歴史学会、pp.182-199、令和5年10月

「御津さんぽ」『ME ～御津と三津寺のこれまでとこれから～』、LLC インセクツ、pp.8-15、令和5年11月

『大阪ヒストリー百色眼鏡』「大坂」から「大阪」へ①、

「大坂」から「大阪」へ②、「歴史のなかの大阪のカタチ①—「浪速古図」の世界1—、「歴史のなかの大阪のカタチ②—「浪速古図」の世界2—、

「歴史のなかの大阪のカタチ③—江戸時代の大阪の“向き”—、「歴史のなかの大阪のカタチ④—“東”から“北”へ—」『MACHINAMI』vol47.no540～

545、一般社団法人大阪府建築士事務所協会、pp.19-20、令和5年4月～7月、9月、10月

『朝鮮通信使と大阪 第2期』2～7「通信使が見た大坂—使行録を読む—1607年：慶暹『海槎録』②～⑦」、

8～11「通信使が見た大坂—使行録を読む—1617年：呉允謙『東槎上録』①～④」駐大阪韓国文化院ホームページ、令和5年4月～10月、12月、2月、3月

・口頭発表

「オランダ人デ・レーケと淀川改修に尽力した人びと—自然の猛威を乗り越えて—」シニアCITYカレッジ大阪人物誌Ⅲ：第1回、NPO法人シニア自然大学校、大阪歴史博物館、令和5年4月

「家康と大阪」大阪市立大学有恒会、大阪公立大学、令和5年5月

「浪華の風景今昔—絵図と名所図会—」シニアCITYカレッジ歴史を楽しむ科、NPO法人シニア自然大学校、プリムローズ大阪、令和5年6月

「織田信長と一向一揆」信長塾、岐阜市、岐阜市生涯学習センター、令和5年8月

「家康最後の勝負 大坂の陣」シニアCITYカレッジ公開講演会、NPO法人シニア自然大学校、大阪歴史博物館、令和5年9月

「家康の生涯における大坂の陣とは」クラブツーリズム

戦国時代を終わらせた男 家康の決断と戦い第1回 家康最後の激闘大坂の陣、大阪歴史博物館、令和5年9月

「歴史に学ぶ平野郷—在地都市の歩みと魅力—」大阪

府高齢者大学校 大阪の史跡探訪科、NPO 法人大阪府高齢者大学校、大阪府社会福祉会館、令和5年9月

「徳川家康と大阪—そのかわりと痕跡を探る—」四天王寺秋季大学、四天王寺、令和5年10月

「文献・絵図にみる中世後期～近世初期の大阪沿海開発—木津を中心に」講演会「中世大阪の沿海開発と村・城館」、大阪歴史博物館・(一財)大阪市文化財協会、大阪歴史博物館、令和5年10月

「今、ふりかえる桃谷地域の歴史 第1回～第3回」中央区桃谷連合自治会、桃谷会館、令和5年10月・11月

「信長を苦しめた大坂本願寺、そして石山合戦(大坂本願寺戦争)」シニアCITYカレッジ歴史を楽しむ科・2期、NPO法人シニア自然大学校、プリムローズ大阪・北御堂ミュージアム、令和5年9月

「波濤を越えて—朝鮮通信使船・川御座船にみる迎接と交流—」特別展「朝鮮通信使と清見寺」講演会、フェルケール博物館、令和5年11月

「家康は大坂城をどう攻めたのか」なにわの宮リレーウォーク、なにわの宮リレーウォーク実行委員会、大阪歴史博物館、令和5年11月

「北御堂と朝鮮通信使」朝鮮通信使縁地連絡協議会フィールドワーク、朝鮮通信使縁地連絡協議会、北御堂ミュージアム

「中世河内の念仏信仰と真宗」寶圓寺秋の法話会、寶圓寺、令和5年11月

「明治の淀川改修と神崎川」すいた昔さろん講座、吹田歴史文化まちづくり協会、吹田歴史文化まちづくりセンター浜屋敷、令和5年12月

「絵図・絵画にみる江戸時代の森ノ宮—武家の地と都市の行楽地—」博学連携講演会「森ノ宮には何があった?—大阪の「ヒガシ」の歴史をさぐる—」大阪公立大学・大阪市博物館機構・大阪市文化財協会、令和6年3月

(3) 大正・昭和初期の大阪における興行史の研究

● 著述

「国員画『浪花百景 江口君堂』、『大阪松竹座七月大歌舞伎番付』、pp.65、令和5年7月

「大阪ヒストリー百色眼鏡 大阪の初春の祭り—十日戎」『MACHINAMI』548、pp.15-16、大阪府建築士事務所協会、令和6年1月

「大阪ヒストリー百色眼鏡 淀川河口部周辺の祭り」『MACHINAMI』2024.3 pp.17-18、大阪府建築士事務所協会、令和6年3月

「瀬戸物町の戦前・戦後—つば善商店 御崎正之氏に聞く—（後編）」『大阪歴史博物館研究紀要』第22号、pp.85-96、令和6年3月

● その他

大阪府公文書館運営懇談会委員 令和5年12月19日

吹田市立博物館運営協議会委員 令和5年度中

門真市文化財保護審議会臨時委員 ～令和5年9月

● 松本百合子

● 専門分野

(1) 考古学

(2) 仏教美術史、近世製油業の研究

(3) 近世貿易陶磁の研究

● 口頭発表

「なにわと油火」OSAKA MUSEUMS 学芸員 TALK & THINK、2月22日（WEB開催）

● その他

クラブツーリズム「歩いて巡る南都七大寺の仏像」講師 令和5年4月7日「第6回 薬師寺～ブロンズと木彫の競演、白鳳・天平の仏像～」、5月12日「第7回 大安寺～消えた大伽藍と平城京のくらし～」

「日本の古代史を彩る、大和の神々を巡る旅」講師 令和5年10月6日「第1回 奈良豆比古神社と旧奈良街道～能楽の源流と奈良きたまちを歩く～」、令和5年10月6日「第5回 大和神社と山辺の道～柳本古墳群と長岳寺を歩く～」

● 村元健一

● 専門分野

(1) 歴史学

(2) 古代の日中交渉

(3) 難波宮と中国都城との比較研究

● 著述

「南齊・梁の陵墓と仏教」『仏教史学研究』65巻1号、pp.99-121 令和5年10月

「曹魏洛陽城の画期性」網 伸也編『東アジア都城と宗教空間』京都大学学術出版会、pp.313-330、令和6年1月

● 口頭発表

「前期・後期難波宮」大阪府高齢者大学校 もっと知りたい大阪の歴史科、アネックスパル法円坂、令和5

年4月26日

「『難波京』の造営—『京』の実態とは 長安・洛陽の影響とは—」大阪自由大学、大阪市中央公会堂、令和6年3月19日

● 調査活動

基盤研究（A）「東アジア古代都城と都市網の宗教空間に関する総合的・比較史的研究」（研究代表者網伸也）による調査として以下の現地踏査を行った。

令和6年2月14・15日 福岡県宗像大社・大分県宇佐八幡宮周辺

令和6年3月9日 香川県高松市屋嶋城

● 李陽浩

● 専門分野

(1) 建築史・都市史

(2) 古代東アジア建築史

(3) 建築技法からみた難波宮の復元的研究

● 著述

「難波宮・京の地形・地割と寺院との関係性」、網伸也編『東アジア都城と宗教空間』、京都大学学術出版会、pp.26-43、令和6年1月

「書評：栄原永遠男著『難波古代史研究』」、『建築史学』82号、pp.116-124、令和6年3月

「古代寺院金堂の本尊と柱間計画：両者の寸法的な関係性をめぐると一試論」、『大阪歴史博物館 研究紀要』22号、pp.21-34、令和6年3月

● 口頭発表

「古代なにわとなにわの宮」、けいはんなリフレッシュウォーク特別短期講座、大阪府北部コミュニティカレッジ、令和5年6月14日

「近年における朝鮮三国時代の発掘調査ノート：都城・寺院を中心に」、都城制研究会 令和5年6月17日

「奈良時代の難波宮と恭仁宮」、史跡恭仁宮跡連続講座「恭仁宮と聖武天皇の四都物語」、京都府立山城郷土資料館、令和6年1月27日

「後期難波宮大極殿と平城宮大極殿」、難波宮発掘開始70周年記念講演会「難波宮研究の現在地」、令和6年2月17日

「大化改新と人物：人物からみた大化改新と難波宮」、シニア city カレッジ講座「大阪人物誌Ⅳ：古代編」、大阪歴史博物館、令和6年2月19日

「難波宮を東に降る：上町台地東辺の歴史的環境」、博学連携講演会「森ノ宮には何があった？—大阪の「ヒガシ」の歴史をさぐる—」、大阪公立大学、大阪市博物館機構、大阪市文化財協会、令和6年3月2日

● 杉本厚典

● 専門分野

(1) 日本考古学

(2) GIS 考古学、産業マップ、弥生土器・土師器の編

年研究

●論文

「江戸時代大坂の茶屋・料理屋の分布」大阪歴史博物館『大阪歴史博物館研究紀要』第22号、pp.55-74
令和6年3月

●口頭発表

高齢者大学校もっと知りたい大阪の歴史科「大阪の古代の地形」令和5年4月19日 大阪市立中央青年センター
「中世大阪の沿海開発と村・城館」～最新の発掘成果と古地形復元を基に～ 講演会「発掘調査からみた中世大阪の沿海開発－難波砂堆」質疑・応答 司会・進行 令和5年10月8日 大阪歴史博物館

シニアCITYカレッジ 大阪人物誌IV 古代編「磐之媛と仁徳天皇」令和5年10月16日 大阪歴史博物館
「歴史ものがたりセミナー「新発見！なにわの考古学2023」にて、古の大阪に想いを馳せる」令和5年11月10日 大阪歴史博物館

小豆島狛犬探究会（招待講演）「近世大坂の石屋分布と廻船」令和6年2月25日 直島町総合福祉センター

●その他

SfMによる測量図化作業

「SX07・08・09 検出状況」大阪市教育委員会・（一財）大阪市文化財協会『大阪城跡』XXI、令和6年3月
ラジオ出演

NHK大阪「関西ラジオワイド」「関西 時の人」コーナー
令和5年12月1日

●阿部文和

●専門分野

- (1) 日本建築史
- (2) 建築儀礼と棟札に関する研究

●加藤俊吾

●専門分野

- (1) 考古学、考古学史、博物館史
- (2) 金属器生産に関わる研究
- (3) 古代～近世における鑄鏡研究

●安岡早穂

●専門分野

- (1) 考古学
- (2) 前近代の漁撈活動、食文化にかかわる研究

●口頭発表

令和6年3月4日「古代なにわの魚とり」OSAKA MUSEUMS 学芸員 TALK & THINK (YouTubeにて配信)

●谷口正樹

●専門分野

- (1) 日本中世史

(2) 都市史、地域社会論

(3) 戦国期地域社会構造の変容過程

●口頭発表

「徳川家康が見た戦国乱世」平野区歴史講座、コミュニティプラザ平野、令和5年5月

「中世のまちづくり」大阪府民カレッジ・富田林校、富田林市民会館、令和5年6月

「中世の大坂—大坂本願寺、そして豊臣大坂城へ」大阪府高齢者大学校、アネックスパル法円坂、令和5年6月

「太平への道のり—秀吉の「天下一統」から大坂の陣—」シニアCITYカレッジ、ホテルプリムローズ大阪、令和5年10月

「[大坂の陣]の史実と伝説」第23回なにわ歴史シンポジウム 上町台地未来遺産フェスタ 徳川家康と大阪・堺、大阪歴史博物館、令和5年12月

「河内源氏「武家の棟梁」の源」なにわ歴博講座、大阪歴史博物館、令和6年1月

「文献史料からみる堺・堺列建物検出地域間の交流」大阪歴史学会考古部会特別研究会「堺列建物からみた中・近世の都市、城郭、地域間交流」、堺市産業振興センター、令和6年3月

●調査活動

令和5年5月26日・29日、10月18日 大阪歴史博物館共同研究「中世後期の大阪市域における平地城館跡、環濠集落跡等の基礎的研究」にともなう平地城館跡の調査

6月15日、7月11日、10月17日・31日 大阪歴史博物館共同研究「浄照坊所蔵文化財の悉皆調査並びに研究」にともなう浄照坊所蔵文化財の調査

●その他

クラブツーリズム「海賊たちの戦国時代」講師、令和5年6月4日

「偉人・敗北からの教訓 第4回・石田三成」コメント・映像出演、BS11、令和5年7月1日

「ラジオ深夜便」コメント、NHKラジオ、令和5年11月11日

●内藤直子

●専門分野

- (1) 京金工の研究
- (2) 大月派の研究
- (3) 京後藤家の研究
- (4) 近代大阪の工芸史研究

●著述

「後藤覚乗試論」『大阪歴史博物館研究紀要』(22) 1—23
令和6年3月

●講演会

「『装剣奇賞』の世界—江戸時代の刀装具と根付」大阪歴史博物館 なにわ歴博講座 令和5年9月3日

「一歩近づく刀剣・刀装具」亀山市歴史博物館特別展

「きらめく亀山刀剣鐔—国助、正吉、国友、間」講演会
令和5年11月3日

- 調査（科研費による調査を除く）
奈良県談山神社文化財調査 令和5年8月24日
- 委員等受嘱
文化庁文化審議会専門委員（第一専門調査会・第四専門調査会）
文化庁文化財研修事業（伝統工芸・文化財保存技術）
企画選定委員
文化庁美術刀剣刀匠技術保存研修会講師
文化庁「刀剣の保存に関する懇談会」出席
東京国立博物館購入候補文化財評価員
九州国立博物館文化財購入買取協議委員
京都国立博物館文化財購入買取協議委員
武蔵野美術大学招聘講師
日本美術刀剣保存協会主催「現代刀職展」審査員
日本刀文化振興協会主催「新作日本刀研磨外装刀職技術展」審査員
全日本刀匠会「お守り刀展覧会」審査員

●飯田直樹

- 専門分野
(1) 歴史学
(2) 日本近現代史
(3) 都市史、社会福祉史
- 著述
「番付から見た大阪相撲」塚田孝編『史料から読む近世大坂』和泉書院、pp.157-161、令和5年9月30日
「書評 池亨・櫻井良樹・陣内秀信・西木浩一・吉田伸之編『みる・よむ・あるく 東京の歴史』全一〇巻」『都市史研究』第10号、pp.108-118、令和5年10月25日
「井ノ元ほのか氏の拙著書評に答える」『歴史科学』第255号、pp.28-36、令和5年11月
「難波村の近代 先行研究の検討から」塚田孝・三田智子・齊藤絃子編『近世難波村の共同研究—都市大坂の周縁をひらく—』大阪公立大学大学院文学研究科都市文化研究センター、pp.123-135、令和6年3月18日
「過去の災害とともに五重塔崩壊の詳細も伝える」『上町大地今昔タイムズ』第20号、pp.3、令和6年3月24日
- 口頭発表
「大阪府方面委員制度の創設過程について」、第6回方面委員研究会、オンライン開催、令和5年4月15日
「難波村の近代 先行研究の検討から」、第30回成舞家文書を読む会、オンライン開催、令和5年9月2日

●俵和馬

- 専門分野
(1) 民俗学
(2) 環境民俗学

(3) 自然観、生業、民間信仰、民具

- 著述
「民俗資料の活用—大阪歴史博物館の事例から—」『日本民俗学』316、pp.147-151、令和5年11月
「大阪歴史博物館所蔵の踏車について」『大阪歴史博物館研究紀要』22、pp.75-84、令和6年3月
- 口頭発表
「俗信・民間信仰から紐解く異界—「異界彷徨—怪異・折り・生と死—」への手招き—」歴史街道倶楽部 歴史ものがたりセミナー、大阪歴史博物館、令和5年5月10日
「折口信夫「古代」へのまなざしと「まれびと」の発見」シニアCITYカレッジ 大阪人物誌Ⅲ～近代編、NPO法人シニア自然大学校、大阪歴史博物館、令和5年5月15日
「民間信仰と俗信からひもとく異界」四天王寺仏教文化講演会、四天王寺、令和5年5月20日
「展覧会ができるまで—「異界彷徨」展を中心に—」(博物館概論ゲストスピーカー)、近畿大学文芸学部、令和5年5月23日
「民俗学の視点からみる異界—俗信・民間信仰の事例を中心に—」大阪歴史博物館友の会 総会、大阪歴史博物館、令和5年6月18日
「折口学事始め—「まれびと」の想像力」阿倍野で学ぶ月曜講座 なにわ大阪とことん探求『幕末・近代大阪の発展・文化の展開』、银杏生涯学習会、大阪市立阿倍野市民学習センター、令和5年6月26日
「生駒谷七森信仰の再検討—環境民俗学の視座から—」生駒民俗会令和5年度例会、生駒ふるさとミュージアム、令和5年9月17日
「水と人の環境民俗論—大阪府下の事例から—」ミュージアム連続講座2023「大阪 水辺をめぐる物語」、大阪市立難波市民学習センター
- 調査活動
令和5年8月19日、10月15日、12月2日 大東市・座摩神社宝物調査
令和6年11月12日 生駒山踏査（石切参道・石切劔箭神社、宝山寺参道・宝山寺、生駒山上遊園地）
令和6年1月9日 和歌山県紀美野町民俗調査
- その他
クラブツーリズム「大和の神々を巡る旅」講師 令和5年11月10日「第2回 大神神社と纏向遺跡～大物主との邂逅と三輪山伝説～」、12月15日「第3回 春日大社とおん祭り～四柱の神、春日に顕現す～」、令和6年3月8日「第6回 鴨氏と葛城の神々～葛城山麓から大和五條をめぐる～」

●寺井誠

- 専門分野
(1) 考古学

- (2) 日本列島と朝鮮半島の交流史
- (3) タタキ技法を基にした弥生～平安時代の土器製作技法の比較研究

- 著述

「在来土器に施された格子文タタキ」『大阪歴史博物館研究紀要』第22号、pp.1-20、令和6年3月

- 口頭発表

「大阪歴史博物館と古代の上町台地を歩く」しおんじやま学び場オンライン 八尾市立しおんじやま古墳学習館、令和5年7月16日

「渡来人～名を残さなかった人たちの交流の物語～」シニアCITYカレッジ短期講座、令和5年11月13日

「古墳時代・三国時代における土器製作技法の相違点と共通点—タタキ技法を中心に—」第35回東アジア古代史・考古学研究会交流会 岡山理科大学、令和5年12月9日

- 調査活動

科学研究費補助金(基盤研究(C) 22K00994「タタキ板およびタタキ技法の復元を基にした異文化受容の多様性の研究」)により、秋田県、群馬県、石川県、福井県、福岡県などで実物資料調査を実施した。

- 岩佐伸一

- 専門分野

- (1) 美術史
- (2) 日本絵画史
- (3) 江戸時代後期の上方の絵画

- 著述

「解題 御影 —江戸時代を中心とした泉涌寺と雲龍院所蔵の作例について」井上智勝・平川信幸・松浦清・岩佐伸一編『埼玉大学教養学部 リベラル・アーツ叢書16 描かれた天皇と琉球国王』埼玉大学教養学部・人文社会科学部研究科、pp.106-109、令和6年3月

「解題」『大阪歴史博物館 館蔵資料集19 興上清雅』大阪歴史博物館、pp.79-89、令和6年3月

- 口頭発表

「描かれた人たち —大坂と京都の肖像画を読み解く」「OSAKA MUSEUMS 学芸員 TALK & THINK」大阪歴史博物館(オンライン)、令和6年2月

- 島崎未央

- 専門分野

- (1) 日本近世史・流通社会史
- (2) 都市史、村落史
- (3) 灯明油の生産と流通

- 著述

「大坂城内の下掃除と御用商人、近郊農村」大澤研一・仁木 宏監修『【築城四百年】徳川大坂城をさぐる』清文堂出版、pp.237-256、令和5年12月

「大坂近郊農村の絞油株について」大阪府立大学文学

研究科叢書12 塚田孝・三田智子・齊藤紘子編『近世難波村の共同研究—都市大坂の周縁をひらく—』大阪公立大学大学院文学研究科都市文化研究センター、pp.101-104、令和6年3月

「株仲間再興後の大坂における油の生産と流通構造—摂津国遠里小野村を例に—」『大阪歴史博物館研究紀要』22号、大阪歴史博物館、pp.25-42、令和6年3月

- 口頭発表

「灯明油の生産と流通—江戸の夜を支えた大坂—」OSAKA MUSEUMS 学芸員 TALK&THINK、令和6年3月4日(WEB開催)

- 調査活動

学術研究助成基金助成金(若手研究 20K13191)「都市大坂を拠点とする油・種物の流通構造」により、関西を中心に調査や資料の収集を行った。

- 豆谷浩之

- 専門分野

- (1) 日本近世史、近世考古学
- (2) 近世都市史
- (3) 武家の大坂屋敷と都市建設の関係、大坂と江戸の都市比較

- 口頭発表

「江戸時代の大坂の暮らしと経済」大阪府高齢者大学校 令和5年6月21日

「中之島界限蔵屋敷跡」大阪府高齢者大学校 令和5年6月21日

「豊臣秀吉の城下町建設」南大江郷塾 令和5年11月21日

「土屋相模守蔵屋敷は何故そこにあったのか？」南大江郷塾 令和5年12月19日

「年貢史料からみた江戸時代初期の喜連」平野区画整理記念会館 令和6年2月2日

「古河藩平野陣屋の役割と周辺村落」平野区画整理記念会館 令和6年2月16日

- 大学での講義

大阪大学「博物館学概論」前期

- その他

古文書学習の支援(喜連村史の会) 4月15日、5月20日、6月17日、7月15日、9月16日、10月21日、11月18日、12月16日、1月20日、2月17日、3月16日

- 中野朋子

- 専門分野

- (1) 美術史・服飾史
- (2) 近代工芸史、近世服飾史
- (3) 近代大阪の陶業史研究、近世後期の京坂における服飾・風俗動向の研究

- 著述

「“大大阪”時代のキモノと大阪の〈粋〉〈はんなり〉〈こ

- うと)」大阪中之島美術館特別展「決定版！女性画家達の大阪」展覧会図録、pp.78-79、令和5年12月
- 「藪明山工房関係文書(二)」『大阪歴史博物館 研究紀要』第22号、大阪歴史博物館、pp.59-69、令和6年3月
- 講演

「描かれたキモノー女性画家たちがみた大阪の〈最先端〉ファッションー」、大阪中之島美術館特別展「決定版！女性画家たちの大阪」関連イベント、令和6年1月13日

「おおさか“派手好き”の真実を探る」、OSAKA MUSEUMS 学芸員 TALK & THINK、令和6年2月16日
 - 調査活動

科学研究費補助金(基盤研究(C) 19K00209「藪明山の薩摩焼上絵付の技術革新と工房経営に関する研究」)により、大阪、京都、愛知、東京、千葉で調査を行った。

大阪歴史博物館共同研究「浄照坊所蔵文化財の悉皆調査並びに研究」により、大阪市天王寺区において調査を行った。

科学研究費補助金(基盤研究(C) 21K01074「『陶業時報』にみる大阪・瀬戸物町における陶磁器商の活動に関する研究」)により、大阪、愛知において調査を行った。

大阪において、上代裂(法隆寺裂ならびに正倉院裂)の調査を行った。
 - 教育活動

大阪藝術大学「服飾史」非常勤講師

●北上真生

- 専門分野
 - (1) 日本近世史・日本近世文学
 - (2) 文化史・藩政史・軍記物語
 - (3) 和菓子文化に関する研究、宮中女官の職制および宮廷文化に関する研究、三田藩および九鬼氏に関する研究、志摩軍記の研究
- 著述

「大阪の町人天文学者・間重富」『大阪歯科保険医新聞』pp.3、令和5年4月25日

「近代医学史の先哲・森鼻宗次」『大阪歴史博物館研究紀要』第22号、pp.43-58、令和6年3月

「〈資料紹介〉『九鬼家発源記』翻刻と解題」『同志社国文学』第100号、pp.54-66、令和6年3月
- 口頭発表

毎日放送「らくごのお時間10周年記念～落語の人気ネタ深掘りSP～〈時うどん〉」令和5年11月26日
- 調査活動

浄照坊所蔵資料調査(大阪歴史博物館共同研究) 令和5年4月～令和6年3月

●岡本 健

- 専門分野
 - (1) 日本考古学
 - (2) 中世・近世考古学
 - (3) 戦国・織豊期における造瓦活動・城郭の研究
- 著述

「大阪市内の中世城館ー柴鳥城と堀城ー」『葦火』大阪市文化財協会、pp.6-7、令和5年4月

「本丸御殿に葺かれた江戸式棧瓦ー尼崎城本丸跡出土瓦の紹介ー」『同志社大学考古学シリーズXⅢ 考古学と文化史 同志社大学考古学研究室開設70周年記念論集』同志社大学考古学研究室、pp.465-474、令和5年4月

「近世・近畿」『考古学ジャーナル』第782号、ニューサイエンス社、pp.119-120、令和5年5月

「戦国期の瓦生産ー摂津・河内、阿波・淡路の事例からー」『ヒストリア』第301号、大阪歴史学会、pp.1-22、令和5年12月

『大坂城跡XⅪ』大阪市教育委員会・(一財)大阪市文化財協会、令和6年3月(分担執筆)
- 口頭発表

「戦国期の瓦生産」大阪歴史学会大会・考古部会報告、令和5年6月25日

「地形環境からみた中世大阪の城館」(地独)大阪市博物館機構・(一財)大阪市文化財協会連携事業「中世大阪の沿海開発と村・城館」～最新の発掘成果と古地形復元を基に～講演会 令和5年10月8日

なにわ歴博講座「金箔瓦と家紋瓦からみた豊臣大坂城」、大阪歴史博物館、令和6年3月10日
- 調査活動

共同研究「中世後期の大阪市域における平地城館跡、環濠集落跡の基礎的研究」にともなう市内城館跡・環濠集落跡の現地調査 令和5年10月31日 館蔵品考古資料採集地の現地調査 柏原市船橋遺跡・金山彦神社・青谷寺
- その他

クラブツーリズム「戦国時代を終わらせた男 家康の決断と戦い」講師 令和5年12月5～7日「第3回家康が愛した三河・遠江・駿河の地でたどる激動の生涯」

受嘱・派遣・視察

受嘱

期間	内容	担当者
R5.6.29 ～ R6.3.29	大阪市経済戦略局 泉布館 VRコンテンツにかかる監修	阿部文和
R5.7.14 ～ 12.25	大阪市天王寺区役所 天王寺区制100周年記念イベント企画監修	阿部文和

派遣依頼対応

日付	派遣先	担当者	日付	派遣先	担当者
R5. 4.17	(特非) シニア自然大学校	大澤研一	R5.10.16	(特非) シニア自然大学校	杉本厚典
R5. 4.24	銀杏生涯学習会	飯田直樹	R5.10.16	大阪市立中大江小学校	谷口正樹
R5. 5.10	歴史街道推進協議会	俵 和馬	R5.10.17	桃谷会館	大澤研一
R5. 5.15	(特非) シニア自然大学校	俵 和馬	R5.10.29	なにわの宮リレーウォーク実行委員会	大澤研一
R5. 5.17	(特非) シニア自然大学校	村元健一	R5.11.10	歴史街道推進協議会	杉本厚典
R5. 5.21	大阪市コミュニティ協会	谷口正樹	R5.11.13	(特非) シニア自然大学校	寺井 誠
R5. 6. 7	八尾市立しおんじやま古墳学習館	寺井 誠	R5.12.10	大阪歴史博物館友の会	大澤研一
R5. 6.12	銀杏生涯学習会	阿部文和	R5.12.11	(特非) シニア自然大学校	松本百合子
R5. 6.12	(特非) シニア自然大学校	飯田直樹	R5.12.20・ R6. 1.13・ 2.28	大阪中之島美術館	中野朋子
R5. 6.26	銀杏生涯学習会	俵 和馬	R6. 1.22	(特非) シニア自然大学校	村元健一
R5. 6.19・22・29	株式会社マッシュ	大澤研一	R6. 1.28	大阪歴史博物館友の会	豆谷浩之
R5. 7.10	(特非) シニア自然大学校	阿部文和	R6. 2.19	(特非) シニア自然大学校	李 陽浩
R5. 7.16	八尾市立しおんじやま古墳学習館	寺井 誠	R6. 3.11	(特非) シニア自然大学校	村元健一
R5. 9. 1	テレビ朝日	大澤研一	R6. 3.22	大阪市経済戦略局 泉布館 VR 完成披露上映会解説	阿部文和
R5. 9. 4	(特非) シニア自然大学校	飯田直樹	R6. 3.23	大阪市経済戦略局 泉布館一般公開解説	阿部文和
R5. 9. 9	(特非) シニア自然大学校	大澤研一			
R5.10.10	毎日放送	北上真生			

視察受入

日付	来訪者	人数	目的	対応
R5. 5. 8	蔚山広域議会	11	館内視察	学芸課
R5. 5.31	韓国 水原市副市長一行	5	館内視察	学芸課
R5. 6.28	シカゴ市親善大使	2	館内視察	総務課
R5. 8. 7	神戸市文書館	3	画像データ整理について	企画広報課
R5. 9.21	ソウル歴史博物館	4	館内視察	学芸課
R5.11. 3	国立加耶文化財研究所	5	館内視察、その他	学芸課
R5.11.10	香港文化博物館	1	館内視察、研修	学芸課
R5.11.16	上海万博博物館	4	館内視察、その他	企画広報課
R5.11.28	中国社会科学院考古研究所	7	館内視察	学芸課
R5.12.20	住友エキスポ2025推進委員会	5	館内視察	企画広報課・総務課
R5.12.21	大阪市長	3	館内視察	学芸課・総務課
R5.12.25	韓日議員連盟朝鮮通信使委員会	15	館内視察	学芸課
R6. 2. 5	横須賀市自然・人文博物館	2	館内視察、リニューアルについて	企画広報課・学芸課
R6. 3.22	韓国文化財庁	7	館内視察・復元事例調査など	学芸課

令和5年度大阪歴史博物館入場者数

月	令和5年度 常設展					令和5年度 特別展					合計	その他 入場
	有料		有料計	無料	常設展計	有料		有料計	無料	特別展計		
	一般	高・大生				一般	高・大生					
4	10,520	767	11,287	3,179	14,466	0	0	0	0	0	14,466	2,430
5	18,094	1,375	19,469	5,605	25,074	0	0	0	0	0	25,074	3,662
6	19,462	2,082	21,544	6,719	28,263	0	0	0	0	0	28,263	3,283
7	15,643	1,232	16,875	3,723	20,598	0	0	0	0	0	20,598	3,265
8	16,678	1,471	18,149	4,418	22,567	0	0	0	0	0	22,567	2,869
9	13,316	859	14,175	3,291	17,466	0	0	0	0	0	17,466	3,973
10	13,114	1,694	14,808	5,070	19,878	0	0	0	0	0	19,878	3,971
11	12,048	892	12,940	9,212	22,152	0	0	0	0	0	22,152	4,262
12	9,542	634	10,176	4,930	15,106	0	0	0	0	0	15,106	3,196
1	10,781	691	11,472	4,508	15,980	0	0	0	0	0	15,980	2,776
2	13,448	775	14,223	5,108	19,331	0	0	0	0	0	19,331	2,891
3	16,274	982	17,256	5,092	22,348	0	0	0	0	0	22,348	3,724
合計	168,920	13,454	182,374	60,855	243,229	0	0	0	0	0	243,229	40,302
										総合計	283,531	

※その他入場には、2・4階貸室利用者数、4階講堂での各種講演会・イベント参加者数などが含まれる。 ※令和5年5月2日 臨時開館

利用規定

大阪歴史博物館利用規程
制定 平成31年4月1日

(趣旨)

第1条 大阪歴史博物館（以下「博物館」という。）の利用に関しては、この規程の定めるところによる。

(休館日)

第2条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

(1) 火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後最初に到来する休日以外の日）

(2) 12月28日から翌年1月4日まで

2 前項の規定にかかわらず、博物館の館長（以下「館長」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、事前に又は速やかに理事長の承認を得て同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。

3 館長は、前項の休館を行う場合、事前に又は速やかにその内容を公告しなければならない。

(供用時間)

第3条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

2 前条第2項及び第3項の規定は、博物館の供用時間について準用する。この場合において、同条第2項中「前項」とあるのは「第3条第1項」と、「休館日を変更し、又は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第3項中「前項」とあるのは「第3条第2項の規定により読み替えられた第2条第2項」と読み替えるものとする。

(使用の許可)

第4条 別表第1に掲げる博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、館長の許可を受けなければならない。

(使用許可の制限)

第5条 次の各号のいずれかに該当するときは、館長は、施設の使用を許可しない。

(1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき

(2) 建物、設備又は展示品等を損傷するおそれがあるとき

(3) 管理上支障があるとき

(4) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団の利益になるとき

(5) その他不相当と認めるとき

(使用許可の取消し等)

第6条 次の各号のいずれかに該当するときは、館長は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。

(1) 偽りその他不正の手段により第4条の許可（以下「使用許可」という。）を受けたとき

(2) 前条各号に定める事由が発生したとき

(3) この規程に違反し、又はこの規程に基づく指示に従わないとき

(意見の聴取)

第7条 館長は、必要があると認めるときは、第5条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くよう理事長に求めるものとする。

2 理事長は、前項の規定による求めがあったときは、第5条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くことができる。

(入館の制限)

第8条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。

(1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者

(2) 建物、設備又は展示品を損傷するおそれがある者

(3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者

(4) 管理上必要な指示に従わない者

(5) その他管理上支障があると認めるとき

(特別観覧の許可)

第9条 博物館等資料について特別の観覧をしようとする者は、館長の許可を受けなければならない。

2 特別の観覧に関する手続きについては、別に定める。

(貸出しの許可)

第10条 博物館等資料の貸出しを受けようとする者は、館長の許可を受けなければならない。

2 博物館等資料の貸出しに関する手続きについては、別に定める。

(利用料金)

第11条 博物館を観覧し、又は施設及びその附属設備を使用しようとする者は、館長に利用料金を支払わなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第17条第1項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒に係る観覧料については、この限りでない。

2 利用料金の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内において、館長があらかじめ理事長の承認を得て定める。利用料金の額を変更しようとするときも、同様とする。

(1) 観覧料 1人1回につき別表第2に掲げる金額

(2) 施設使用料 別表第1に掲げる金額（施設の附属設備については、別に定める種別に応じて館長が要項で定める金額）

3 日曜日、土曜日及び休日における施設の使用に係る施設使用料の額は、前項の規定による金額の2割増しの範囲内において、館長があらかじめ理事長の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。

4 施設の使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）が入場料その他これに類する料金を徴収する場合における施設の使用に係る施設使用料の額は、前2項の規定による金額の5割増しの範囲内において、館長があらかじめ理事長の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。

5 理事長は、前3項の承認（貸出し料の額に係るものを除く。）を行ったときは、速やかに当該承認を行った利用料金の額を公告するものとする。

- 6 館長は、公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、別に定める要項に基づき、利用料金を減額し、又は免除することができる。
- 7 館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、既納の利用料金の全部又は一部を還付することができる。
- (1) 災害その他使用者の責めに帰すことのできない特別の事由により施設を使用することができなくなったとき
 - (2) 使用者が施設の使用を開始する前に使用許可の取消しを申し出た場合において、館長がその理由を相当と認めて当該使用許可を取り消したとき
 - (3) その他館長が特別の事由があると認めるとき

(特別設備)

第12条 使用者は、館長の許可を受け、特別の設備をすることができる。

2 館長は、使用者に対して必要な設備をすることを命ずることができる。

3 使用者が前第1項、第2項の規定により、特別の設備をしたときは、使用後直ちにこれを撤去して、原状に復さなければならない。

(損害の賠償及び事故の責任)

第13条 博物館を観覧する者又は施設の使用の許可を受けた者が建物、設備又は博物館等資料を損傷し、又は亡失したときは、理事長の定めるところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

2 使用者は、使用に関して生じた一切の事故につき、その責めを負うものとする。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程の施行期日は、平成31年4月1日とする。
- 2 本規定の施行前に納付された利用料金については、なお従前の例による。

別表第1(第4条、第11条関係)

区分	施設使用料
講 堂	1室1日につき 36,000円
第1研修室	1室1日につき 15,200円
第2研修室	1室1日につき 8,200円
第1会議室	1室1日につき 7,500円
第2会議室	1室1日につき 7,000円
第3会議室	1室1日につき 7,300円
特別展示室	1室1日につき 96,800円

別表第2(第11条関係)

区分		観覧料	団体(20人以上)観覧料
常 設 展示室	高等学校、高等専門学校、大学及びこれらに準ずる教育施設に在学する者	400円	360円
	その他の者	600円	540円
特 別 展示室	高等学校、高等専門学校、大学及びこれらに準ずる教育施設に在学する者	1,600円	1,440円
	その他の者	2,400円	2,160円

運営組織

大阪歴史博物館は、大阪府が設立する地方独立行政法人大阪市博物館機構が設置し、管理運営を行う。

組織

館 長	大澤研一		
総 務 課	課 長	塚田 義	
	係 長	羽室有加里	
	主 任	桜井香栄	
		原田立子	
	係 員	西村安希子	
		山本幸恵	
		小川泰伸	
		坂東一徳	
企画広報課	課 長	澤井浩一	
	企画広報係	係 長	李 陽浩 (兼務)
		主任学芸員	杉本厚典
		係 員	阿部文和
			柴田晃子
	情報資料係	係 長	加藤俊吾
		係 員	安岡早穂
			谷口正樹
			小林佳美
			宮下愛子
研究副主幹	李 陽浩		
学 芸 課	課 長	松本百合子	
	課長代理	村元健一	
	学芸第1係	係 長	内藤直子
		主任学芸員	飯田直樹
		係 員	俵 和馬
	学芸第2係	係 長	寺井 誠
		主任学芸員	岩佐伸一
		係 員	島崎未央
			川端優子 (総務課兼務)
	学芸第3係	係 長	豆谷浩之
		主任学芸員	中野朋子
		係 員	北上真生
			岡本 健

人事

新規採用 (令和5年4月1日)	総 務 課	係 員	西村安希子
		係 員	坂東一徳
再 雇 用 (令和5年4月1日)	企画広報課	課 長	澤井浩一
	学芸第3係	係 長	豆谷浩之
転 入 (令和5年4月1日)	総 務 課	課 長	塚田 義
		主 任	原田立子
			(大阪市博物館機構経営企画課より)
転 出 (令和5年4月1日)	総 務 課	課 長	佐藤周平
			(大阪市博物館機構経営企画課へ)
退 職 (令和6年3月31日)	学 芸 課	課長代理	村元健一
	学 芸 課	主任学芸員	飯田直樹
	総 務 課	係 員	坂東一徳

大阪歴史博物館年報 令和5年度

令和6年10月18日発行©

編集・発行 大阪歴史博物館
〒540-0008 大阪市中央区大手前4丁目1-32

印刷・製本 株式会社中島弘文堂印刷所
〒537-0002 大阪市東成区深江南2丁目6番8号

ANNUAL REPORT
of
Osaka Museum of History
Oct. 2024